

## 第 151 回 練馬区の荒川最勝像と中野区の舜学義堯像

筆者：林 久治（記載：2021 年 4 月 25 日）

### （1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

3 月になり、武漢肺炎の緊急事態宣言は 2 週間延長になったが、自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要不可欠である。最近の東京都新規感染者は 1 日に 300 人前後に収まっているので、出来るだけ人出の少ない所に行くようにしている。

3 月 7 日には早稲田に行って探索記を [146 回の記事/f](#) に記載した。3 月 15 日には新宿中央公園を探索し探索記を [147 回の記事/f](#) に記載した。3 月 27 日に大久保に行って探索記を [148 回の記事/f](#) に記載した。4 月 3 日には、成城学園の澤柳政太郎像と吉祥寺駅前の「ゾウのはな子像」を探索し探索記を [149 回の記事/f](#) に記載した。4 月 10 日には、中野区の伊藤金左エ門像を探索し探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。

4 月中旬になり、東京都新規感染者は 1 日に 700 人以上に増加し、大阪府に至っては 1000 人以上になっている。従って、私の銅像探索も自宅付近に自粛している。従って、4 月 16 日には、練馬区の荒川最勝像と中野区の舜学義堯像を探索した。これらの銅像は、[1\) のサイト/](#) に収録されているが、基礎情報が記載されていないので、今回探索した次第である。その探査記を本稿に記載する。本稿では資料からの引用を **緑文字** で、私の注釈や意見は **青文字** で記載する。

### （2）練馬区信行寺の荒川最勝像

4 月 16 日、私は先ず荒川最勝像が設置されている練馬区の信行寺に行った。その周辺地図を次ページの図 1 に示す。本図で示すように、西武練馬駅の北口には練馬文化センター（図 1 の①）があり、その横の「いちよう並木」を北上すると、南町小学校（図 1 の②）に着く。ここの角を、さらに北に曲がると、信行寺のコンクリート造りの建物（図 1 の③）がある。練馬駅から信行寺までは、徒歩で約 10 分である。なお、信行寺の近くに、十一ヶ寺（図 1 の④）とよばれる浄土宗の寺院群がある。



図 1. 練馬駅から信行寺までの地図 ①：練馬文化センター、②：南町小学校、③：信行寺、④：十一ヶ寺。本図は、[2\) のサイト/](#)より借用。

ウィキペディアには、次の記載がある。

田島山十一ヶ寺（たじまさんじゅういっかじ）は、東京都練馬区練馬にある、浄土宗の寺院群。「練馬十一ヶ寺」とも。各寺院は、元は浅草にあった田島山誓願寺の塔頭であった。誓願寺の塔頭寺院が、1923年の関東大震災の後、現在地へ移転したもので、通りの左右に11か寺が軒を連ねる。いずれも、寺号は誓願寺で、本山は知恩院である。なお、本寺の誓願寺は東京都府中市に移転した。

また、ウィキペディアには、次の記載がある。

信行寺（しんぎょうじ）は、東京都練馬区にある浄土真宗本願寺派の寺院。山号は龍王山。本尊は、阿弥陀如来である。

1920年：荒川最勝師が、東京市西巢鴨町池袋不動堂に、真行寺出張所として開教。公称は、高尾山説教所であった。

1929年：信徒増加に伴い、現在地に、奈良県吉野郡飯貝から寺籍を移す。

1930年2月：寺基が定まる。

1955年：本願寺築地別院に模して、インド式築地型の本堂を建立。

1957年：落成慶讃法要を執り行う。

次ページの図 2 上には、信行寺の正門から中を覗いた写真を示す。本殿は、コンクリート造りのインド風の建物である。本殿の右側に胸像が見える。胸像の周辺写真を図 2 下に示す。

胸像の写真を、4 ページの図 3 上に示す。胸像背面の銘文を図 3 下左に、台座正面の題字を図 3 下右に示す。

（本文は、4 ページに続く。）



図2. 上：信行寺の境内、下：胸像の周辺写真





図3.  
上：胸像の写真、  
下左：胸像背面の銘文、  
下右：台座正面の題字。

題字には、「**信行寺開基 釋最勝法師之像**」と書かれていた。釋は浄土真宗の法名で、俗名は「荒川最勝」である。胸像背面の銘文には「松太郎 作」としか書かれておらず、本像の制作者の氏名は不詳である。

台座には、「釋最勝法師之像」の銘文が貼られていた。その写真を次ページの図4に示す。昭和43年制作の銘文であるが、手入れが行き届いていて、明瞭に判読することが出来た。銘文の内容を、6ページに示す。このように、故人の略歴を記載してあると、銅像研究者としては大変有難い。

(本文は、6ページに続く。)

能山信行寺開基  
初代住職  
釋最勝法師之像

一法師は明治十二年十月二十日、信井県大野郡猪野瀬村片敷(現能山町)に生る。  
 一明治三十二年十九才の時剃髮得度を受く、寺は眉ヶ瀬(元寺院なりしを以て此  
 年の頃より新寺建立を發願、明治四十三年所屬の奈良県吉野郡飯貝所在の信  
 行寺に転換、その寺号を新と改稱し、苦勞したるも種々繼問のため遂に断念す。  
 一 大正三年の暮時に三十四才、失意の末新天地に活路を求めて單身上京、諸級  
 に頼つて難伏いつしか五ヶ年を度す。  
 一 大正九年東京府下西薬師町池袋字三家(現豊島区池袋八丁目)で故あつて解散し  
 た高尾山不動堂の本堂並に庫裡を買収、信行寺出張所となし、後、高尾山説  
 教所と公称布教に専念す。  
 一 昭和三年一寺建立の念願を果さんとして敷地を物色し、現在地を購入、寺号を  
 新と改稱、寺有墓地の許可を得、昭和五年三月庫裡を建築、十月十二日御遷佛慶讃  
 法要を厳修、時に五十才なり。  
 一 昭和八年十一月多年教線抔張に從事した功勞により階如上人任燈奉告会も記  
 念して本山より表彰を受く。  
 一 昭和二十三年住職の地位を副住職と譲つて退任したるも昭和二十九年時に七  
 十四才、一生の最後の事業として本堂建立に挺身し、女いの希望により發願  
 新様式により鉄筋コンクリート建の大本堂の建立を成就す。  
 一 昭和四十二年春以来病息を病み、療養中であつたが、病も高熱の上心臓衰弱  
 により本年三月七日早朝より容態急変し、八日午前一時息絶、住職の遺骸も遂に  
 三月九日密葬茶臼に付し、十四日寺門葬、京都本山より菩提院の現号と遺骨が  
 伝達され、葬儀は極めて厳肅裡に執り行われた。

前住職が本年は米寺なるを以て五月十二日祝賀会を催し、開創の功を謝し  
 て、遺骸を贈る予定であつたが、そのかた途去され痛惜に堪えず、当日は  
 追悼会も修して、尚像を陰幕し、当座の竣工も待つて七月八日の命日に安んずす

昭和四十三年七月 信行寺住職 荒川大信 誌

図4. 台座に貼られた本像の銘文



台座に貼られた本像の銘文は、以下の通りである。

龍王山信行寺開基 初代住職 釋最勝法師之像

法師は明治十二年十月二十日 福井県大野郡猪野瀬村片浪（現大野市）に生る。

明治三十二年十九才の時剃髪得度を受く。寺は届け漏れ寺院なりしを以て莊年の頃より新寺建立を發願。明治四十三年所屬を奈良県吉野郡飯貝所在の信行寺に轉換。その寺号移転に苦勞したるも種々難問のため遂に断念す。

大正三年の暮時に三十四才、失意の末新天地に活路を求め単身上京。諸縁に頼って雄伏いつしか五ケ年を関す。

大正九年東京府下西巢鴨町池袋字三家（現豊島区池袋八丁目）で故あって解散した高尾山不動堂本堂並びに庫裡を買収、信行寺出張所となし、後に高尾山説致所と公称布教に専念す。

昭和三年一寺建立の念願を果たさんとして敷地を物色し現在地を購入 寺号移転 寺有墓地の許可を得、昭和五年三月庫裡を建築、十月十二日御遷佛慶賛法要を厳修、時に五十才なり。

昭和八年十一月多年教線拡張に従事した功績により勝如上人伝燈奉告会を記念して本山より表象を受く。

昭和二十三年住職の地位を副住職に譲って退任したるも昭和二十九年時に七十四才、一生の最後の事業として本堂建立に挺身したいとの希望により發願新様式により鉄筋コンクリート建の大本堂の建立を成就す。

昭和四十二年春以来喘息を病み療養中であつたが、儂くも高齢の上心臓衰弱により本年三月七日早朝より容体急変し八日午前一時臨終往生の素懐を遂ぐ。三月九日密葬茶毘に付し十四日寺門葬 京都本山より誓願院の院号と達者が伝達され 葬儀は極めて厳肅裡に執り行われた。

前住職が本年は米寿なるを以て五月十二日祝賀会を催し開創の功を謝して胸像を贈る予定であつたが にわかに逝去され痛惜に堪えず。当日は追悼会を修して胸像を除幕し台座の竣工を待つて七月八日の今日に安置す。

昭和四十三年七月 信行寺住職 荒川大信 誌

以上の資料より、本像の概要は次の通りである。

荒川最勝師

設置場所：東京都練馬区練馬 2-12-11 信行寺境内

設置時期：1968年5月12日除幕、同年7月8日設置

制作者：松太郎（姓は不明）

胸像題字：釋最勝法師之像

設置経緯（台座銘文の要約）：荒川最勝師（1879. 10. 20-1968. 3. 8）は福井県大野郡猪野瀬村片浪（現大野市）に生る。1899年19才の時剃髪得度を受く。1914年暮に単身上京。1920年東京府下西巢鴨町池袋字三家（現豊島区池袋八丁目）で信行寺を開基。1929年現在地に移転、1930年3月庫裡を建築、同年10月12日御遷佛慶賛法要を厳修。1955年本願寺築地別院に模して、インド式築地型の本堂を建立。

### (3) 中野区成願寺の舜学義堯像

東武練馬駅で大江戸線に乗り換えて、中野坂上駅で下車すると、成願寺は近い。当寺の周辺地図を図5左に、当寺の境内図を図5右に示す。当寺は練馬区の信行寺と比較すると、遙かに歴史のある古刹である。当寺の山門の写真を、次ページの図6上に示す。



図5. 左：成願寺の周辺地図、右：成願寺の境内図。本図は、[3\)](#)のサイト/mより借用。

ウィキペディアによれば、当寺の由緒は次の通りである。

成願寺は、東京都中野区本町2-26-6にある曹洞宗の寺院。山号は多宝山。開基である鈴木九郎(1376-1440)は紀州出身で室町時代に当地にやってきて開拓・放牧を始め、成功し財を成し「中野長者」と呼ばれ、成願寺付近に邸宅を構えていた。鈴木九郎には小笹という一人娘がいたが18歳で病死し、九郎に深い悲しみを与えた。これを機に残りの人生を仏門に生きる決意をし、小田原の大雄山最乗寺の春屋宗能の教えを受け名を正蓮に改め僧侶となり、邸宅を寺院にしたのが当寺院の始まりである。1438年のことであった。幕末には一時、新撰組の近藤勇とその家族が当寺院に身を寄せていた。

(本文は、9ページに続く。)





図6. 上：成願寺の山門、下：成願寺の本堂と立像。





図7. 左：成願寺本堂の横に設置された立像、右：本像の台座正面に貼られた銘板。

成願寺本堂の横に設置された立像の写真を図7左に、本像の台座正面に貼られた銘板の写真を図7右に示す。銘板には「昭和五十五年五月五日 無用■用 舜学義堯」と彫られている。（なお、昭和55年は1980年である。）本文より、本像の座主は「舜学義堯」と推測される。

ネットで検索しても、「舜学義堯」の記事は極めて少ない。その幾つかを以下に紹介する。

①成願寺の寺報109号（[4](#)）のサイト/f、2016年6月18日発行）には、次のように書かれている。

成願寺三十三世 中野たから幼稚園創設者 小林義堯大和尚供養会のお知らせ

当山先住舜学義堯大和尚（昭和五十九年七月十四日遷）三十三回忌を迎えます。就いては左記次第にて法要を行ないます。先住と縁深い方々の御随喜御来臨頂ければ誠に幸甚です。住職 小林貢人 拝請

ば誠に幸甚です。住職 小林貢人 拝請

本記事より、舜学義堯大和尚の本名は「小林義堯」で、1984年7月14日に亡くなられたことが分かる。

②「東京保護観察」と題する雑誌の1967年7月号（[5\)のサイト/0](#)）に、小林義堯氏は「偶感」と題する記事を書いている。

③成願寺の寺報109号（[6\)のサイト/m](#)）に、「追悼・小林義堯大和尚を偲ぶ」との記事があるが、内容は閲覧できない。

④成願寺の寺報110号（[7\)のサイト/f](#)、2016年8月18日発行）には、7月14日に行われた33回忌の報告があり、義堯氏の思い出が色々と語られていた。その中で、義堯氏は「昭和49（1974）年に77才であった」と語られている。そうすると、彼の生年は1897年と考えられる。また、「小林貢人は義堯の三男」と書かれている。

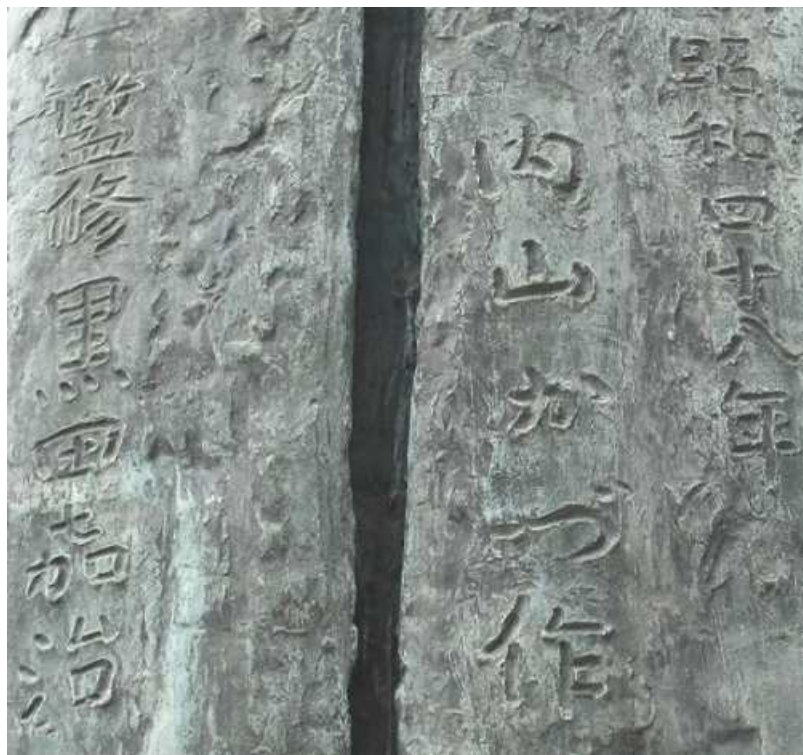


図8. 舜学義堯像の背面に彫られた制作者のサイン

本像の背面には、制作者のサインが彫られていた。その写真を、図8に示す。それには、次のように彫られている。

昭和四十八年 内山かつ作 監修 黒田嘉治

ネット上では、「内山かつ」の記事はないが、「黒田嘉治」の記事は沢山ある。

[8\)のサイト/1](#)には、次のように書かれている。

黒田嘉治（没年月日:1984/12/12）は明治41(1908)年3月29日東京市浅草区に生まれ、東京中学校を経て昭和6年東京美術学校彫刻科塑造部を卒業。



なお、成願寺の紹介としては、[9\) のサイト/1](#)が優れている。以上の資料より、本像の概要は次の通りである。

#### 舜学義堯大和尚立像

設置場所：中野区本町 2-26-6 成願寺本堂横

制作者：内山かづ、監修：黒田嘉治（1908-1984）

制作時期：1973 年

設置経緯：成願寺は、中野地区を開拓した中野長者（本名：鈴木九郎、1376-1440）が1438年に創建。舜学義堯大和尚（本名：小林義堯、1897?-1984. 7. 14）は成願寺の33世住職。義堯師の経歴は不詳であるが、師に関しては次のような記事がある。①大東亜戦争中、義堯師は英語力を買われ、陸軍参謀本部外国語研究部に徴用され、学童疎開にも奔走した。②義堯師は、空襲で灰燼に帰した伽藍の再建に尽力した。③義堯師は、1954年に「中野たから幼稚園」を開設。④義堯師は、当山の法灯護持にとどまらず、刑務所篤志面接委員、布教師、大日本佛教連合会事業本部部長、東京都民生委員協議会事務委員長、北多摩地区保護司会会長などを歴任し、広く活躍した。

#### 参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：  
[https://www.mapion.co.jp/phonebook/M51015/13120/99870727\\_ipcbl/](https://www.mapion.co.jp/phonebook/M51015/13120/99870727_ipcbl/)
- 3) のサイト：[https://www.nakanojouganji.jp/kihou\\_list69.htm](https://www.nakanojouganji.jp/kihou_list69.htm)
- 4) のサイト：<https://www.nakanojouganji.jp/kihou/109.pdf>
- 5) のサイト：<https://iss.ndl.go.jp/books/R100000039-I000873975-00>
- 6) のサイト：[https://www.nakanojouganji.jp/kihou\\_list69.htm](https://www.nakanojouganji.jp/kihou_list69.htm)
- 7) のサイト：<http://www.nakanojouganji.jp/kihou/110.pdf>
- 8) のサイト：<https://www.tobunken.go.jp/materials/bukko/9934.html>
- 9) のサイト：<https://ameblo.jp/benben7887/entry-12288062325.html>